



歯ろはろ～新聞



発行/ 多田歯科医院

高松市木太町792-6 ☎087-815-2010

ホームページ <http://www.tadashika.jp/>

こんにちは、9月に入って少しずつ暑さも衰え、徐々に涼やかな季節になって参りましたね。

早いもので今年も9月!“秋”がやってきましたね。 秋といえば「食欲の秋」「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」と色々な楽しみがあります。 また、「夜空のお月様」も美しくなる季節ですね。 特にアジア圏では「お月見」の風習があり月を愛でる文化もあります。 お月見は主に、旧暦の8月15日の夜(八月十五夜)と、日本では旧暦の9月13日の夜(九月十三夜)にも行なわれ、そこから「十五夜」「十三夜」という様に呼ばれています。 毎年お月見をされている方はお気づきかと思いますが、実は現代の暦では、この両日が必ずしも“満月”にはなりません。 それはどうしてかということ、昔使われていた「旧暦」は“月の満ち欠け”で日付を決めていましたが、現在の「太陽暦」ではこの日が必ずしも満月にならないため、毎年「十五夜」「十三夜」の日にちが変わりますよね。 ちなみに、今年の十五夜は“9月19日”、十三夜は“10月17日”です。 このお月見ですが、実は起源は不明のようです。 最近の研究によると、中国では月見の日にサトイモを食べることから、もともとは「サトイモの収穫祭」として始まったのではないかとされています。 その後、中国の宮廷行事としてお月見が行われるようになり、それが奈良時代に日本に伝わったようです。 日本でも当時は、宮中で月見の宴が開かれたり、庶民の間でも月を神聖なる神としてあがめ、農民は秋の収穫物を供えて五穀豊穡をお祝いしたそうです。 現在も地域によって多少の違いはあるものの、十五夜には「お団子」「お餅」「ススキ」「サトイモ」などをお供えして月を眺めますよね。 また、十三夜は日本独自のもので「月見団子」のほかに「栗」や「枝豆」をお供えして月を愛でますよね。 ちなみに十五夜の日、台湾、香港、韓国などでは休日となり、盛大にお祝いするそうですよ。 毎日忙しく暮らしていると、夜空の月を眺めるのも忘れがちになりますが、たまにはゆっくりと夜空を眺め、美しいお月様を楽しむのもいいですね。

あなたも
“歯科通”に
なれる...!?

歯医者が
出題する

“**歯とお口**”
のクイズ

「人間」は大人になると、歯が全部で28本(※親知らずは除く)生えてきますが、“人間以外の動物”は何本くらい生えているかご存知ですか? 例えば、「ウマ」は雄が40本、雌は36本生えています。 また、「ネズミ」は全部で16本生えており、3～4日で約1mm伸びてきます。そのため、ネズミはいつも何かをかじって伸びを防いでいるそうです。 さて、ここでこんな問題を出題!

Q. 次の動物の中で“歯の本数が最も多い動物”はどれでしょう?

